

平成 2 9 年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

幼稚園教育と小学校教育の接続を図るための幼児期に生活していくために必要な習慣や学びに向かう力との関連性の検討を含めた「考える力」の育成を重視する教育課程及び教育内容・指導方法の研究開発

2 研究の概要

本研究は、幼稚園と小学校の円滑な接続を図るために、幼児期に「学びに向かう力」等を育み、主体的にひと・もの・ことに関わりながら、幼児の「考える力」を育成することを重視した教育課程の開発、及び幼小の教育課程の接続や指導方法の研究開発を目的とするものである。

特に、平成 27 年度までの附属幼・小・中の一貫教育研究主題「考える力を育てることばの教育」の視点から「考える力」に注目し、「学びに向かう力」と「考える力」の育成の関連性の実践的検討を行った。その中で、3・4・5 歳児の教育課程を改めて再編するとともに、「幼小接続期カリキュラム」を開発し、幼児の育ちの評価にも取り組んできた。今年度は、「幼児期に生活していくために必要な習慣」の視点で教育課程を見直し、「学びに向かう力」と「考える力」の関係性を明確にし、教育内容及び指導方法を探るとともに、一年生の追跡調査を行い、「考える力」の育ちの評価を行った。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

- 「学びに向かう力」に焦点を当てて教師の援助や環境構成を工夫することで、幼児が主体的にひと・もの・ことに関わり、「考える力」が豊かになるのではないかと。
- 「幼児期に生活していくために必要な習慣」と「学びに向かう力」「考える力」との関係性を明らかにすると、「考える力」を豊かに育む指導方法を明確にすることができるのではないかと。
- 「幼小接続期カリキュラム」に沿って実践を行うことで、その時期にふさわしい「考える力」や「学びに向かう力」の育ちを促し、幼小接続を円滑にすることができるのではないかと。
- 本園の教育課程に基づいた評価の視点で、より多くの保育場面における幼児の姿を評価することで、各時期の「考える力」の育ちを見取ることができるのではないかと。

(2) 教育課程の特例

特になし

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

1) 「学びに向かう力」と「考える力」

①本園の「学びに向かう力」の定義

本園では、「学びに向かう力」を幼児を遊びに突き動かす力であり、原動力のような意欲的側面と定め、以下のような 5 つの視点で捉えている。今年度は特に「挑戦意欲」に焦点を当てて実践を行うこととした。そこで、具体的な幼児の姿も併記する。

- 「好奇心」 …様々なことに興味をもつ心
- 「自発性」 …自分から意欲的に遊びや生活に取り組もうとする心
- 「自制心」 …自分の気持ちや行動を調整しようとする心
- 「挑戦意欲」…めあてをもって取り組もうとする心
 - 目標に向かって諦めずに粘り強く乗り越えようとする姿
 - できないことや自分には少し難しいことをやってみようとする姿
- 「協同性」 …互いの思いや考えを共有し、実現に向けて協力しようとする心

②本園の「考える力」の定義

本園では、幼児期に育みたい「考える力」を次のように捉えている。

幼児が遊びや生活の中でひと・もの・ことに関わり、自分のめあてを達成するために試行錯誤したり、友達や教師と思いを共有したりする力

③「学びに向かう力」と「考える力」の関係

「学びに向かう力」を育てると、「考える力」が豊かになる。また、「考える力」が豊かになると「学びに向かう力」も育つ。「学びに向かう力」と「考える力」は相互に影響し合い豊かになっていく関係であると捉える。

図1は、教師が幼児の内面に目を向け、水や養分を根に与える援助を行うことで、「学びに向かう力」という根がしっかりと張り、「考える力」という木の葉が生い茂るというイメージを示している。このイメージのように「考える力」が育った姿が、小学校以降の学びにつながると考える。

2) 「学びに向かう力」の「挑戦意欲」

本園の幼児の実態と、最近の幼児教育の課題から幼小接続期には目標に向かって諦めずに課題を乗り越えようとしたり、少し難しいことにも取り組もうとしたりする心が必要であると考えた。初めてのことや少し難しいことにも失敗を恐れずに取り組もうとする心や、粘り強く物事に繰り返し関わろうとする心を育てることが豊かな「考える力」を育てたり、社会で生き抜いていく力につながっていく。そこで、「学びに向かう力」の特に「挑戦意欲」に焦点を当てて、実践を行ってきた。「挑戦意欲」を中心とした幼児の育ちの道筋や「学びに向かう力」の5つの視点の関係性を整理し以下の仮説的關係図を作成した(図2)。

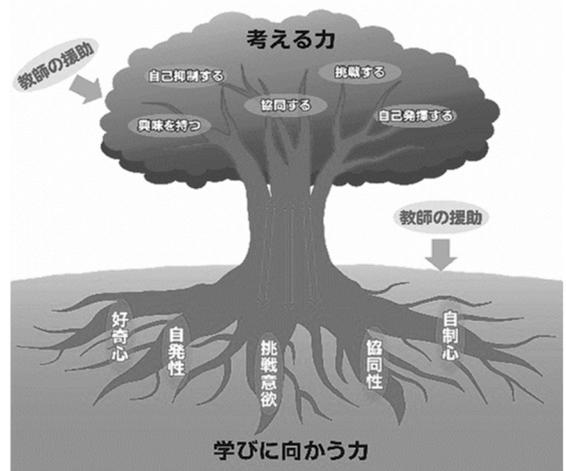


図1. 「学びに向かう力」と「考える力」の関係図

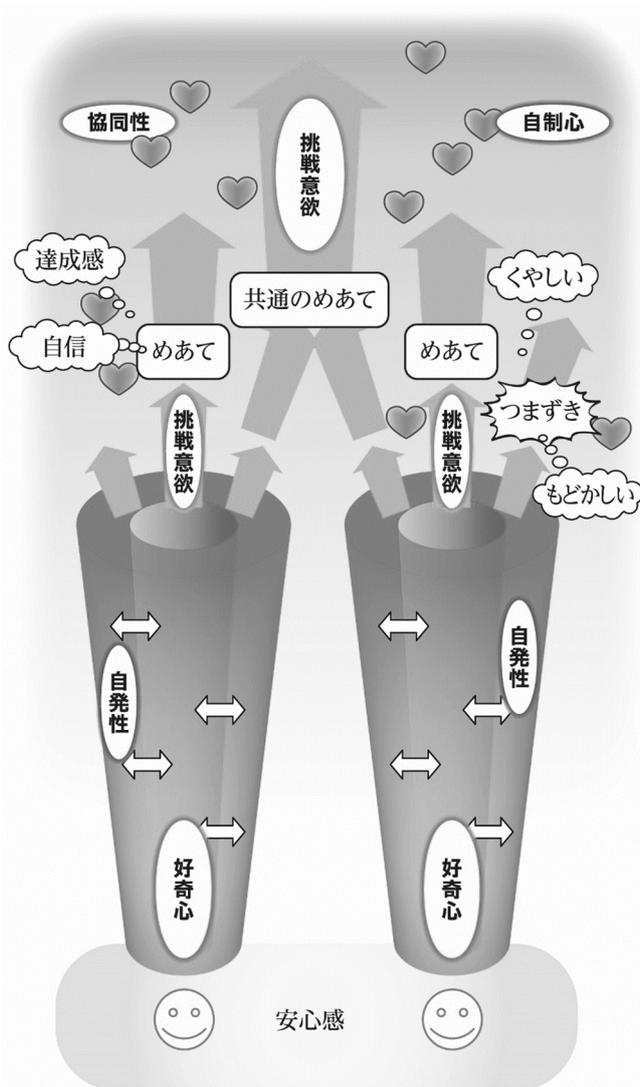
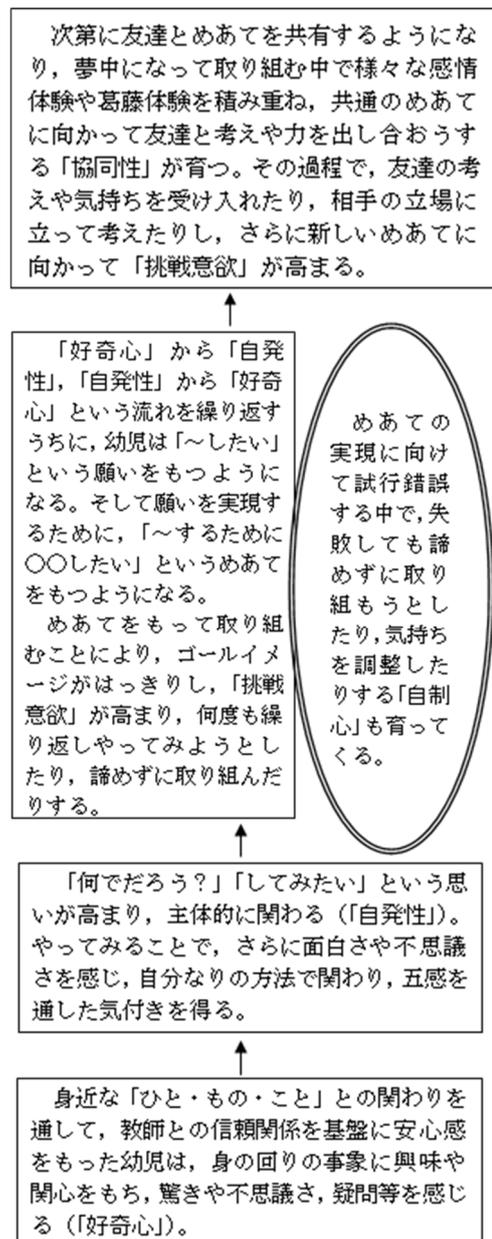


図2. 「挑戦意欲」に焦点を当てた「学びに向かう力」の仮説的關係図



②評価の視点の見直し

昨年度の反省から以下のように評価の視点を見直し、幼小教員が評価基準を共通理解し、評価しやすいものに改善した。

- 2月～3月に評価の視点を見直し、2つの行動の要素が入り判断しにくい「～たり」の表現は可能な限り使わない表現方法に修正し、基準を統一した。
- 内面的な育ちの姿は評価しにくいので、行動で見取りやすい文言に精査した。
- 昨年度、幼小教員の評価結果のずれが生じやすかった項目には、評価基準となる具体的な姿を右欄に表記した。
- 「幼児期に生活していくために必要な習慣」に関する評価の視点を追記した。「幼児期に生活していくために必要な習慣」は短期に身に付くものではないと考え、5月・7月の2回に分けて評価せず、1学期間を通して身に付いているかどうか7月に判断することとした。
- 4月の幼小接続部会では、新たな構成部員の幼小教員で評価基準を共通理解できるように、評価項目の文言の意味や具体的な場面の例、児童の姿の見取り方について協議し、評価の視点を修正した。

評価の視点	当てはまる具体例	幼稚園		小学校		
		5月	7月	5月	7月	
対象	①様々な生活事象に関心を持ち、特に関心を持ち、	半習部・生活部すべての事象を対象とする。	5月			
	②形や色、数字や文字、音や図形を使った活動や運動の表し方に興行き、自分なりに考えたり感嘆したりする。	形や色は図工で見える、言葉集の表意図的に理解し、大作りを自主的に構築する。	5月			
	③旅行経験しながら、自分なりにより良い方法を発見する。	工作・絵画・ものづくり・ひらがな・ノートを丁寧に書く・鉄棒やボールなど、できるまでの過程においてどうすればよいのか次連の様子を観察したり、やってみたりする。好きな遊びに続けて遊ぶ。ボール、大作り、しりとり・数回ブロックの操作等	5月			
	④小学校の施設や用具に関心をもち、約束を守って自分から使う。	学校探検後、特別教室の使い方や運動部ボックスの使い方等資料の中での約束が中心。6月は、守ろうとする。7月は守るの意、特に差は付けなくてもよい。	5月			
	工作・絵画・ものづくり・ひらがな・ノートを丁寧に書く・鉄棒やボール	7月				
		5月				
生活習慣	①先生や次連のしていることに興味を持ち見聞かせる。	自ら見聞かしている姿・次連の顔に対して反応する姿「付けたし」「完成の拍手」等	5月			
	②次連の考えやしていることの良さに興行き、認める。	造形遊び・水遊び・遊具を使った運動遊び等で、自分と違う遊び方をしている次連の様子を見て、「すごいね」「いいね」「まねしてもいい？」等と言っている姿もOK。	5月			
	③初めての環境や集団の中で、次連と思いや考えを出し合う。	隣の人と相談する。班で活動する。次連に「一緒にーしよう」という	5月			
	④好きな次連と生活の中で身に付けてきたことをおしきって活動を進める。	身に付けてきたこと：得意・アイデア	5月			
生活習慣	・材料を見たり次の授業までにすることを記憶したりして行動する。	1年生であるので、教師が半分までを打った後でよい。				
	・人の話を自分のこととして聞き、考えたり行動したりする。	話をしている人の方を向く。うなづく				
	・(新しい環境でも) 思ったことや分からないことは、先生や次連に尋ねる。					
	・小学校生活のきまりや約束を知り、守る。	廊下の右側を歩く、遊び場の使い方、登下校のルール等				

図7. 一年生の評価の視点の一部

7) 一年生の育ちの姿の共通理解

5月と7月の2回の実績を通して様々な変容や、個に応じた今後の指導方法が見えてきた。

幼稚園教員	小学校教員
○A児は、園では大人しく自分から発言することは少なかったが、入学後喜んで通学したり、隣の友達と発表したりする姿を見て、意欲的に小学校生活に臨んでいると嬉しく思った。	○A児は、発言も少なく、もっと自信をもって取り組んでほしいと願っていた。しかし、幼稚園の頃の様子を聞き、A児の頑張っている様子が分かった。A児が安心して自分らしさを出せるようこれからも配慮していきたい。
○B児は、幼稚園教員が見に来る際はあまり意欲的な姿が見られにくかった。他の場面ではどのような様子か。	○B児は、幼稚園教員が見ていない場面で頑張っていたり、意欲的に取り組んだりする場面も見られる。好きな教科や活動に、自分なりのやり方や思いで関わっているので、そこを読み取りながら援助していくことが大切である。
○C児は、様々なことが気になって落ち着かない様子だったが、他の場面ではどうか。	○C児は、様々なことによく気が付き、友達への発言も多い。一方で、自分の意見を強く言うこともあるので、周りの友達の意見に気付けるようにしていきたい。
○生活習慣の項目については、生活に慣れ約束を守ったり、人の話を聞いたりしているように感じたが、どうか。	○生活習慣については、ほとんどの児童は定着してきている。小学校生活に慣れたために、約束を守りにくくなってきた児童もいる。

以上のように、評価に関する話し合いを何度も重ね、同じ場面を同じ視点で評価したことにより、以下のような成果や課題が挙げられた。

- 見取りやすいからと児童の発表や、その場の姿だけを見て評価するものではなく、それまでの過程を丁寧に見て総合的に評価することが大切である。その場面だけでなく様々な場面を見て総合的に評価することが重要であると改めて共通理解した。
- 一年生1学期に育ってほしい姿を具体的に捉えておき評価することで、幼稚園教員は小学校へのつながり

- の見通しをもち保育することができ、小学校教員は幼稚園の育ちを引き継ぐことができると分かった。
- 評価した後に幼小教員が話し合い、共通理解することが重要であるため、7月の評価後も幼小教員で評価結果をもち寄り、1学期の児童の育ちを確かめ合い、2学期以降の指導方法について話し合った。
 - 評価結果だけで判断するのではなく、一人一人の前後の期間の様々な変容や、個の育ちを明確に捉えて指導方法に生かしていくことが重要であると考察した。

(2) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園と小学校の円滑な接続を目指し、研究組織の整備や、学部との共同研究及び支援体制の整備を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼小接続部会を定期的に行い、協議を深めた。 ・岡山大学教育学部幼児教育講座との研究推進会議を年4回開催し、指導助言を受けた。(2年次以降も開催) ・運営指導委員会を年2回開催し、指導助言を受けた。 ○同様の研究に取り組んでいる他園の研究会参加等による情報収集や、外部講師を招いての職員研修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・新潟大学教育学部附属長岡校園、東京学芸大学附属竹早学校園の研究会に参加し、幼小接続の在り方や教育課程の作成等について情報収集を行った。 ・講師に加藤繁美先生(山梨大学教授)をお迎えし、園内研修を行い、本園の研究について指導助言を受けた。 ○幼児期の「考える力とことばの発達ステージマップ」の確立及び、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期前半の「カリキュラム補足表」の作成を行った。 ○「カリキュラム補足表」に基づいた有効な教師の援助と環境構成の工夫について分析し、明らかにした。 ○「幼児期に生活していくために必要な習慣」や「学びに向かう力」と「考える力」について検討した。
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう力」を仮定し、それに焦点を当てた実践を行い、分析した。 ○第1年次に明らかになった「考える力」の発達の姿に対応した教育実践を継続し、「考える力」を育てるために有効な教師の援助と環境構成を明確にし、「カリキュラム補足表」の妥当性を検証した。 ○同様の研究に取り組んでいる他園の研究会参加等による情報収集や、外部講師を招いての職員研修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・お茶の水女子大学附属幼稚園、広島大学三原附属学園の研究会に参加し、幼小接続の在り方や教育課程の作成等について研修を深めた。 ・講師に無藤隆先生(白梅学園大学教授)をお迎えし、園内研修を行い、本園の研究について指導助言を受けた。 ○幼小接続期である5歳児後半から一年生の「考える力」の発達の姿を整理し、その育ちを促すための教師の援助や環境構成を位置付けた「幼小接続期カリキュラム」を作成した。さらに、連続する姿を見通しながら5歳児を中心に具体的な指導内容や方法について計画し、実践した。 ○本園の研究について保護者に知らせた上で、アンケートを年2回実施した。保護者の見取った家庭での育ちの姿を園も把握することで、園と家庭とが同じ方向を向いて幼児の育ちを豊かにすることができるようにするとともに、さらに評価に生かした。
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう力」の5つの視点の定義と見取り方を整理した。「学びに向かう力」の5つの視点の関連性を、「挑戦意欲」に焦点を当てて捉え仮説を立て、実践し分析した。 ○同様の研究に取り組んでいる他園の研究会参加等による情報収集や、外部講師を招いての職員研修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学附属幼稚園、神戸大学附属幼稚園、東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎の研究会に参加し、幼小接続の在り方や教育課程の作成等について研修を深めた。 ・講師に大豆生田啓友先生(玉川大学教授)をお迎えし、園内研修を行い、本園の研究について指導助言を受けた。 ○「学びに向かう力」の視点で各学年の教育課程の見直しを行った。 ○第2年次に作成した「幼小接続期カリキュラム」をもとに評価の視点を作成し、それを使い、幼小教員が一年生の姿を評価した。(追跡調査) ○昨年度から始めた保護者アンケートについて、園と家庭とが同じ方向を向いて幼児の育ちをより豊かにすることができるよう、アンケート項目の見直しを行った。アンケート結果は個人懇談の中でも話題にするとともに、さらに評価に生かした。
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> ○「挑戦意欲」に焦点を当てた仮説に基づき、実践し分析した。また、「幼児期に生活していくために必要な習慣」の定義と身に付いていく道筋を整理した。 ○各学年の「教育課程」を「幼児期に生活していくために必要な習慣」の視点で見直しを行った。

	<p>また、月の指導計画に「学びに向かう力」と「幼児期に生活していくために必要な習慣」が位置付けられているかを見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同様の研究に取り組んでいる他園の研究会参加等による情報収集や、外部講師を招いての職員研修を行った。 ・熊本大学教育学部附属幼稚園の研究会に参加し、各学年の接続の在り方や教育課程のつながり等について研修を深めた。 ・講師に河合優子先生（文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育調査官）をお迎えし、園内研修を行い、本園の研究について指導助言を受けた。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についてご教示を受けた。 ○昨年度作成した評価の視点をどの教員も同じ基準で評価することができるように見直し、幼小教員で一年生の「考える力」の育ちを評価した（追跡調査）。また、「幼児期に生活していくために必要な習慣」の視点も付け加え、習慣の育ちも評価した。 ○保護者アンケートの項目を担当の評価の視点と同じものにするるとともに、アンケート結果は学級懇談や個人懇談の中で活用し、園と家庭とが同じ方向を向いて幼児の育ちをより豊かにすることができるようにした。
--	---

(3) 評価に関する取組

		評価方法等				
第1年次		<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の様子を継続的に写真やビデオ等で記録し、3つの「ことばの学び」の視点で分析したものと、作成した「カリキュラム補足表」の「考える力」の発達の姿とをすり合わせた。 ○エピソードを3つの「ことばの学び」の視点で分析した。 				
第2年次		<ul style="list-style-type: none"> ○評価の視点及び評価方法の検討を重ねた。 ・岡山大学教育学部附属学校園で作成した「一貫教育カリキュラム」をもとにした評価の視点と評価方法について、研究会議で検討を重ねた。 ・評価検討委員会で各校園の評価の視点や方法を出し合い、協議した。 ・5月と11月に運営指導委員会を開催し、評価の視点や方法について指導・助言を受けた。 ○評価の視点・評価方法を新たに定め、それによって「考える力」を豊かに育むための実践の評価を行った。 ・各学年対象児を6名抽出し、6月は観察記録による育ちの検証、11月はビデオ記録による育ちの検証を行い、6月と11月の姿を比較し、変容を明らかにした。 ・評価の視点をもとに12月と3月に全園児の育ちを確かめ、実践の評価を行った。 ・評価の視点をもとに、6月と11月の研究発表会の公開保育の参加者が幼児の学びの姿と有効だった教師の援助を記述したものを評価に生かした。 ・小学校教員、大学教員、公立幼稚園教員等様々な立場の評価者による保育の評価を行い、客観性を高めた。 ○研究の視点を取り入れた新しい保護者アンケートを6月と11月に実施した。 ・11月のアンケートには、保護者が幼児の変容をどの程度捉えているのか分かりやすいよう数値化するための選択式の項目を記述式の項目に加えた。 ・保護者の家庭での取組が分かる設問の工夫を行い、研究の効果を確かめられるようにした。 				
第3年次		評価対象	評価者	評価方法	評価内容	評価時期
		追跡対象児	本園教員	実践事例 観察記録	<ul style="list-style-type: none"> ○各時期に培いたい「学びに向かう力」が育まれているか。 ○「学びに向かう力」を引き出すために有効な環境構成及び教師の援助は何か。 	6・11月
		学級の幼児	学級担任	日々の記録		6・11・3月
			公開保育参加者	観察記録		11月
		任意に抽出した幼児	大学教員	観察記録		9月
		子	保護者	アンケート	「学びに向かう力」に焦点を当てた指導後、どのような変容が見られたか。	6・11月
		本園卒業児 (小学一年生)	一年生担任 本園教員	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> ○各時期に培いたい「考える力」が育まれているか。 ○「学びに向かう力」を引き出すために有効な環境構成及び教師の援助は何か。 	5・7月
		○幼児の育ちや教師の指導方法等について評価・分析した。また、評価者を本園職員以外にも広げることで、評価の客観性を高めた。				
第4年次		<ul style="list-style-type: none"> ○第3年次同様、様々な評価者で様々な方法で評価を行うことで、4年間の研究成果を検証した。 ○追跡調査から2年間の一年生の評価結果や、幼児と一年生の姿を比較分析し、「学びに向かう 				

	<p>力」と「考える力」の育ちの連続性を評価した。さらに、開発した「学びに向かう力」を位置付けた教育課程を検証した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム・マネジメントの仕方を整理し直し、評価結果を次の実践に生かしやすいように教師同士の話し合いの場や方法を考えたり、評価方法及び評価基準の検証をしたりした。 ○4年間の本園研究の成果を公開保育と研究発表で公開した。また、公開保育時には本園の研究の視点で参加者に幼児の学びの姿を記録してもらったことで、幼児への効果と「学びに向かう力」を引き出すために有効だった教師の援助を探った。 ○11月8日の本園の幼児教育研究会でシンポジストに無藤隆先生（白梅学園大学特任教授）、高瀬淳先生（岡山大学大学院教育学研究科教授）、猪木直樹氏（全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長）をお迎えし、「未来に生きる子どもの学びに向かう力を引き出す」と題し、シンポジウムを開催した。その中で本園の研究について指導・評価を受けた。
--	---

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

1) 幼児への効果

①エピソードからの見取り

「挑戦意欲」に焦点を当てて実践した各学年のエピソードを「考える力」の育ちで分析した。いずれのエピソードの幼児も入園当初、進級当初の姿と比べ変容が見られ、「考える力」が育っていると捉えられた。以下にエピソードの一例と「考える力」の育ち、「学びに向かう力」に焦点を当てた教師の援助及び環境構成をキーワードで挙げる。

〈3歳児〉10月

A児は、戸外であまり遊ぶことがなく、保育室でかいたりつくったりすることを繰り返し楽しんでいった。教師や友達がコック帽をかぶってごちそうをつくる様子を見て、A児も砂場に走っていき、①コック帽とエプロンを身に付けてコックになりきり、②砂とナンテンの実を入れた鍋をコンロの上に置いてお玉で混ぜる。教師が「なんだかいい匂いがしてきたなー」と言うと、③「こちらどうぞ」と言って、レストランの机に教師を案内する。A児はお玉で鍋の中身をお椀に移してお盆に乗せ、④「うどんができましたー！熱いのでふーふーしてください」と教師のところに持ってくる。教師がお椀を持って「温かくて美味しそう！」と言い、冷ましていると、⑤「辛いが入っているので気を付けてください」とA児は言う。教師はうどんを食べ、「ほんとに！からーい！」と言うと、A児は⑥「飲み物をもってきます。少々お待ちください！」と言ってコップに砂を入れれた上にドングリを並べ、⑦「ドングリソーダです！」と持ってくる。

【「考える力」の育ち】

①なりきる ②真似る ③場面に合った言葉を選ぶ ④・⑤・⑦見立てる ⑥言葉のやりとりを楽しむ

【教師の援助及び環境構成】 コック帽とエプロンを用意する、していることを言葉にして受け止める 等

〈4歳児〉11月

1学期から①年長児が取り組む姿に刺激を受け、雲梯や登り棒に取り組む幼児がいる反面、B児はなかなか取り組む姿を見せず、触って下りることを繰り返していた。教師はB児の思いを受け止め、一人一人の取り組む姿を認めたり、写真に撮って掲示したりしていた。

2学期になると、②B児も友達が取り組んでいる様子に興味をもち、やってみようとする姿が増え、③手が赤くなったり『がんばりまめ』ができたりすることに誇りを感じるようになる。「がんばりまめが足にもできた！」と言う友達の足を見たり自分の手を見せたりするようになる。そこで、うんていや登り棒に宝物やメダル等の表示を付けると、④どこまで行きたいか自分なりに思いをもって取り組み、表示を目安に自分の頑張りを感じ喜んだり、周りにいる幼児が⑤「毎日やらないとできるようにならない」というのを聞いて「いつもやってるもん」と自信をもちたりして、挑戦することを楽しむようになった。

【「考える力」の育ち】

①興味をもつ ②自分なりに取り組む ③・⑤自信をもつ・満足感を味わう ④めあてをもって取り組む

【教師の援助及び環境構成】 うんていや登り棒にめあてになるような目印を付ける、していることを言葉にして励ます 等

〈5歳児〉11月

C児、D児、E児が①筒や段ボール等を組み合わせてドングリを転がすコースをつくっているが、途中で止まりなかなか最後まで転がらない。教師は思ったようにいかないもどかしさを受け止めながら、②3人で筒の傾きを何度も調整する様子を見守る。繰り返し試す中で端から端まで転がるようになり喜び合う。教師は「まっすぐ転がるようになったね」と嬉しさに共感してから、「ここからどうなるの？」と次のめあてが明確になるような声を掛ける。すると、③C児が「そうだ、ここを曲げたらいいんじゃない？」とD児とE児に提案し、2人は「いいねえ」と受け入れる。そして、④E児「この筒をつなげたら？」C児「ちょっとここ押さえていて」E児「セロテープじゃダメだよ。ガムテープ取って」と考えを伝え合いながら新たなコースをつなげる。しかし、その日は何度やっても曲がる部分が思うようにつながらないので、翌日以降も遊ぶことができるようその場に置いておくことにする。「どうしたらうまくいくのかな」と教師も一緒に考えていると、D児が「みんなに聞いてみよう」と言う。降園前の振り返りでC児、D児、E児の話を聞いた幼児から「もっと高いところから転がしたら？」「壁があったらドングリが飛び出ないよ」等といくつかの意見が出る。3人は⑤翌日もコースをつくり続け、

前日に聞いた考えを試す。

【「考える力」の育ち】

①めあてを共有する ②試行錯誤する ③受容する ③・④伝え合う ④分担する ⑤粘り強く取り組む

【教師の援助及び環境構成】 自分で選ぶことができるように筒や段ボール等様々な種類の材料を用意する、幼児同士の思いをつなげるように一緒に考える 等

②公開保育参加者の見取り

3歳	<ul style="list-style-type: none">・ドングリやナンテン等の秋の自然物を使ったままごとに興味をもち、コック帽、コンロ、フライパン等も使いながら「カレー2つください」「甘いカレーがいいです」等とレストランごっこ遊びのイメージをもって思ったことを先生や友達に言ったり、関わったりしながら遊ぶ姿が見られた。(自発性)・カップに細長い紙を貼り合わせて頭に付けようとするが、なかなかうまくいかずに紙を長くした。紙を長くしたことでネックレスになった。カップを覗くと「望遠鏡」のイメージを思い付いたようでカップを2つ合わせた。このように、自分なりのイメージをもってじっくり遊んでいた。(自発性)・年中児やつくっている電車の線路を見て、自分でもソフト積み木をつなげて電車をつくり、年中児がつくった線路の横で年中児の電車が来るのを楽しみに待つ姿が見られ、異年齢児との関わりによって「やってみたい」という気持ちを引き出されていた。(好奇心)
4歳	<ul style="list-style-type: none">・電車ごっこの中で電車が進む線路をもっと長くしたいと思った時に、線路が足りなくなると気付いて教師に段ボールを要求し、自分でつくり始めた。すぐに線路として使えるように絵の具ではなく、油性ペンで線路をかき、周りの幼児も思い思いにつくり始めた。より線路らしくなるように自分の考えていることを友達に伝えていた。(自発性)・自分なりに工夫しながら木の実のケーキづくりをしていた。できあがったケーキを見て「おいしそうだね」「ここに赤い木の実もあっていいね」と同じ遊びをしている友達と伝え合っていた。(協同性)・鉄棒の握り方や足の上げ方等のコツを聞いたり、体を支えてもらったりしながら、逆上がりに何度も挑戦していた。(挑戦意欲)
5歳	<ul style="list-style-type: none">・ドングリ転がしの場では長さや太さが違う筒や棒、段ボール等様々な材料を使って「ドングリをゴールまで転がせよう」という子どもたちの中での共通のめあてがあり、それぞれが試行錯誤をしながら意欲をもって取り組んでいた。失敗しても、遊びを楽しんでいるからこそ笑顔で「次やってみよう！」と友達と一緒に進める姿が見られた。(挑戦意欲)・ドングリ転がしの場では、「トンネルを長く通したい」という共通のめあてに向けて協力したり、することを分担したりしながら声を掛け合い、うまくいったときには互いに喜び合う姿が見られた。(協同性)・魚釣りのゲームコーナーで客役の幼児がなかなか魚を釣れなかった。店員役の幼児は、竿の長さを変えようとしなかったが、しばらく友達の様子を見ていて自分なりに折り合いをつけたのか、竿を短くしてもよいというルールを友達に伝えていた。(自制心)

上記の「考える力」は各期の教育課程や月の指導計画等に挙がっている「考える力」に含まれており、「挑戦意欲」を引き出すために各年齢に応じた「学びに向かう力」に焦点を当てた実践の中で、「考える力」が育っていると検証できた。また、本園で考えた仮説的關係図に沿った各時期に応じた幼児の「学びに向かう力」も引き出された。

今年度は、学びに直接働き掛ける前に、「やってみたい！」という「挑戦意欲」に焦点を当てた援助を行ったことで、3歳児は、やってみたいと思ったことに何度も関わって遊ぶという「考える力」、4歳児は自分なりのめあてをもって思いを出し合いながら遊びを進めるという「考える力」が育まれた。また、5歳児は、共通のめあてに向かい思いや考えを伝え、試行錯誤しながら遊びを進めるという「考える力」や、うまくいかないことも笑顔で受け入れたり、諦めずに再び取り組もうとしたりする幼児の姿が多く見られ、最後まで諦めずに繰り返し取り組むという「考える力」も育むことができたと考えられる。

2) 教師への効果

①岡山大学大学院教育学研究科教員（以下大学教員と表記する）からの評価

保育を参観した大学教員より「各学年の教師の援助は温かく、それぞれの幼児の思いや願いに応じたものになっていた。また、『学びに向かう力』を引き出すために、教師は言葉を掛けすぎず、見守ったりタイミングを図って声を掛けたりしていた。『学びに向かう力』に焦点を当てて実践を行ったり研究を進めてきたりした成果として指導に表れていた」と評価を得ることができた。

②教師自身の評価

ア) 保育力の向上

幼児の心の揺れ動きや表情の変化等に注目しながら内面に目を向けた幼児理解をしようとする意識を強くもつようになった。また、幼児の姿を見取る視点として「学びに向かう力」が発揮されているのか、学びを得ているのか、その両方なのか等、より深い視点で幼児の姿を理解しようとするとともに、それまでの過程を振り返って考察したり今後の変容を予想したりしながら継続的に幼児の姿を捉えようとするようになった。

イ) 指導方法等の改善

○今までは教師の願いが強く、幼児の「自発性」の育ちや幼児が自分で考える機会等を保障することができていなかったのではないかと振り返ったことにより、幼児の心が揺れ動く様子を意図的に見守りながら、

必要な援助はどのようなものなのかを見極める大切さと難しさを実感した。幼児の行動を意欲的な側面に目を向けながら見取り、幼児の興味に合った遊びの場や準備する用具や材料の精選、幼児の必要感からの環境の再構成等に努めた。

- 「学びに向かう力」の5つの視点において、それぞれの学年で重視する視点を意識して指導計画や保育構想図を立てたことで、その月・週に育てたい幼児の姿を具体化したり、援助方法を明確にしたりしながら、見通しをもって保育を進めることができた。
- 自分なりのめあてに向かう幼児の取組の過程を支えるとともに、友達の頑張りを喜び合ったり、刺激し合ったりできるような援助に努めた。このように友達同士で励まし合い、喜び合う温かい受容的風土づくりに努め、「協同性」を引き出し、より「挑戦意欲」を育むことができた。
- 「好奇心」に支えられた「聞く」習慣の大切さを再確認したことにより、「姿勢よく聞く」「黙って聞く」等の幼児の表面的な姿にとらわれることなく、幼児の興味や「好奇心」を揺り動かしたり、具体的なイメージを抱いたりできる視覚的な支援方法や言葉掛けに努めるようになった。

ウ) 教員の教育実践への意欲

幼児の実態から予測した環境構成の充実や再構成に努めたが、「やってみよう!」「幼児がどのような関わり方をするのか、どのような表情を見せるのか知りたい」という「学びに向かう力」を教師自身ももって実践に取り組むことができた。そして、幼児と同じ思いを共有することで、幼児の発想の豊かさや一生懸命さ、思いやりの心等に触れることができ、教師も遊びを楽しみ、意欲や充実感を感じることもできた。

エ) 教師間の連携

- 幼児の実態や指導方法を話し合う「こどもカフェ」や園内の環境構成を話し合う「あそびばカフェ」の実施、「学びに向かう力」の仮説的關係図をもとに週の指導計画や月の指導計画の見直しや作成を行い、同じ学年だけでなく他学年の教師同士で話し合いを通して、それぞれの時期や幼児の実態に応じた指導方法を検討し、同じ思いで計画を立てたり、幼児に関わったりすることができた。一方、研修を通して様々な教師の考え方に触れることができ、幼児理解が深まったり、援助方法を広げたりすることができた。
- 小学校教員と接続部会での協議、授業参観、追跡調査等から、同じ視点で幼児と児童の育ちを捉え、互いに大切にしていることを共通理解したり、指導方法や幼児と児童の姿の見取り方の違い等を認め合ったりしながら、連携を深めることができた。また、追跡調査の評価の視点や評価結果についての話し合いを通して、「幼小接続期カリキュラム」の内容や言葉の捉え方の見直しを行うことができた。

3) 保護者への効果

保護者に対して実施したアンケートの中で、「学びに向かう力」を育むために家庭でも気を付けて取り組んでいることについて尋ねる項目を設けた。その回答では、以下のような記述が見られた。

- 自然と関わりその中でいろいろな気付きや発見ができるように、週末はよく一緒に公園や山に行っている。
- 子どもが興味をもったことには積極的に挑戦させるようにしている。
- できる限り一緒にご飯をつくったり掃除をしたりして家族の一員としてお手伝いをしてもらおうようにしている。
- 自分で考えて行動できるようにするために、大人がすぐに答えを出さないようにしている。「何で?」と聞かれたら「なぜだろうね?」「何でだと思う?」と答え、自分の考えを言わせるようにしている。
- 結果を褒めるよりも、それまでの頑張った過程を褒めるようにしている。

以上のことから幼稚園で大切にしている取組を保護者も理解し、家庭でもやってみようとしていることが推察できる。保護者も「学びに向かう力」の大切さを意識し、我が子が主体的に考えたり生活したりすることができるように関わろうとする姿勢が高まってきていると考えられる。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

第一に、今年度は、「学びに向かう力」の「挑戦意欲」に焦点を当てて実践を行ったり研究を進めてきたことで、視点が明確になり実践に取り組みやすくなった。広範な概念である「学びに向かう力」のどこに焦点を当てるか、幼児の姿や園の課題等を精査しながら、焦点化することは大変重要であった。他方、「学びに向かう力」は内面的なものであり、育ちを明確に捉えることは難しいため、今後も継続して多面的に検証していく必要があった。

第二に、一年生の評価の視点を作成する過程において、幼小教員で「幼小接続期カリキュラム」をもとに一年生の姿の捉え方について協議を深め、共通理解を図りながら進めていくことで、互いの教育への理解が深まり、大変意義があった。今後は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な幼児の姿をもとに話し合いをし、幼児の育ちや発達のだるさを幼小教員で共通理解しながら幼小連携を深めていきたい。

第三に、教育課程の開発の成果を幼児の姿や保護者、行政機関等の意見から得ようと、様々な評価者や手段で計画的に評価を実施したことで、幼児の育ちや指導方法の見直しを行うことができた。しかし、各評価のねらいを明確に定めていなかったため、評価結果を効率的に実践や教育課程に反映し、改善を図ることが難しかった。今後は、各評価のねらいや評価方法を精選し、実践への還元の筋道を考えて評価を実施する。そして、理論的かつ汎用的な評価結果の検証を行い、保育の改善・充実に生かしていきたい。また、家庭や地域等との連携を含めたカリキュラム・マネジメントの実践にも努めていきたい。

教育課程（3年保育3歳児）

安心感：(安) 「学びに向かう力」の5つの視点の表記 好奇心：(好)・自発性：(発)・自制心：(制)・挑戦意欲：(挑)・協同性：(協) 基本的生活習慣：(基) 生活していくために必要な習慣：【習一生活・聞く・話す・きまり】

期	I-①		I-②			I-③					
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
その時期の特徴	園の環境に親しみ、先生と一緒にいろいろなものに関わる時期		自分からいろいろなものにかかわり、先生や友達との触れ合いを喜ぶ時期			気の合う友達と、自分の思いを出しながら遊ぶ時期					
ねらい	○興味をもった物や遊具を見たり触れたりして遊ぶ。 ○新しい環境に慣れる。 ○先生に親しみをもち、先生や友達の中で遊ぶ。		○自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ○自分の安定できる場を見付け、いろいろなことを自分からしようとする。 ○同じ場で遊んでいる友達に関心をもつ。			○身近な遊具や用具を使っていろいろな遊びを考えたり、遊びに必要な物を見付けたりする。 ○できたことを喜び、またやってみようとする。 ○自分の思いを出しながら、気の合う友達と一緒に遊ぶ。					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち物の片付けの仕方、おやつを食べ方、便所の使い方等、園生活の仕方を知る。(基) ・室内外にいろいろな遊具や用具があることに気付き、触れて遊ぶ。(好) ・先生や世話をしてくれる年長児に親しみをもつ。(安) ・いろいろな遊具の使い方や順番等のあることを知る。【習一きまり】 ・したいこと、してほしいことを先生に身振りや言葉で表現しようとする。(発)【習一話す】 ・園内の飼育物、生き物、草花に関心をもつ。(好) ・新しい環境に慣れ、自分の組、印等、園での生活に必要なものや場所を知る。(安) ・手遊びをしたり歌を歌ったり、いろいろなものになったりすることを楽しむ。(好) ・砂や土等様々な素材に触れて遊ぶ。(好) 		<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱、持ち物の片付け、おやつのお箸の片付け、降園の用意等、生活に必要なことを先生に教えてもらいながら、自分でしようとする。(基) ・戸外で走ったり跳んだりして、体を動かして遊ぶ。(発) ・同じ場で遊んでいる友達に気付き、かかわろうとする。(発)【習一聞く・話す】 ・生活に必要な言葉(「貸して」「いいよ」等)を使おうとする。(発)【習一話す】 ・先生に見たこと、したことを自分なりの言葉で表現する。(発)【習一話す】 ・自分の周囲のことに目を向け、身近な自然物(生き物、植物、砂、土、水等)に関心をもつ。(好) ・身近な環境の中で安心して遊ぶとともに、幼稚園にはいろいろな場があることに気付く。(安)(好) ・曲に合わせて体を動かしたり、歌ったりすることを楽しむ。(発) ・いろいろな材料や用具でかいたりつくったりすることを楽しむ。(発) ・遊びや生活の中で数や量に興味をもつ。(好) 			<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の仕方が分かり、持ち物の片付け、降園の用意等、自分の身の回りのことではできるだけ自分でする。(基)【習一生活】 ・うがい、手洗い等、健康な生活に必要なことをしようとする。(基) ・室内外で先生や友達と、鬼遊びや集団遊びをし、体を動かして遊ぶ。(発) ・同じ場にいる友達と一緒に遊んだり話したりする。(発)【習一聞く・話す】 ・友達の嫌がることを言ったりしたりしてはいけないことに気付く。(制) ・思ったことや感じたことを先生や友達に自分の言葉で言う。(発)【習一話す】 ・自然の美しさに触れたり、身近な自然物(砂、木の実、氷等)を使って遊んだりする中で自然の変化を感じる。(好) ・身近な環境の中でいろいろな場所に関わるとともに、園外のいろいろな場所を知る。(発) ・身近な生活の中の出来事を知る。(好) ・歌ったり楽器を鳴らしたりいろいろなものになって動いたりして、様々な表現を楽しむ。(発) ・いろいろな材料に触れ、それを使うことを喜ぶ。(発) ・遊びや生活の中で数や量に興味をもつ。(好) 					
環境構成と教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> (1)園生活の仕方を知らせるときには幼児の生活に必要なことから知らせ、幼児にとって負担にならないようにするとともに常に励まし、手助けするようにする。(安)(基) (2)月齢や入園までの家庭環境によって、個人差が大きく見られるので、個々の幼児に応じた援助をする。(安) (3)戸外の環境に思う存分触れ、慣れることができるように、教師も一緒に遊びながら面白さを知らせる。(好) (4)遊具は家庭でも親しんでいるものや家庭にはあまりないものを用意することで、園にある遊具や遊びに興味をもちやすく遊び始めやすいようにする。(安) (5)言葉では表現できない幼児の要求や思いを受け止め幼児が満足できるような対応をする。また、視線や言葉を交わしたり、手をつないだり、一緒に遊んだりして、一人一人が先生と一緒に過ごしていると実感できるようにする。(発)【習一話す】 (6)室内の遊具や固定遊具の使い方や遊び方を一緒に遊びながら知らせ、親しんだり、安全な遊び方に気付いたりできるようにする。【習一きまり】 (7)生き物や草花に触れたり、戸外での幼児の発見や驚きに共感したりして、自然の中で遊ぶ楽しさを味わえるようにする。(好) (8)壁面飾り等で保育室を温かく楽しい雰囲気にして、自分の組に親しみをもち安心して遊ぶことができるようにする。また、靴箱やロッカー、タオル掛け等それぞれに、幼児が自分の場所が分かりやすいシールを貼っておく。いつでも声が聞こえ姿が見える範囲に教師がいることで、安心して遊べる空間になるようにする。(安) (9)幼児の遊びが一段落した頃や気分転換が必要なとき等に幼児の活動の様子を見ながら歌を歌ったり、紙芝居や絵本を見たりして、ほっとできる雰囲気をつくる。(安)(好) (10)砂や小麦粉粘土等、興味を引きやすく感触を楽しめる素材を用意する。(好) 		<ul style="list-style-type: none"> (1)着替えの仕方を具体的に知らせることで、自分で衣服の着脱をしようとしたりできた喜びを感じたりすることができるようにする。(基) (2)行動が活発になってきているので、晴れた日には戸外で遊んだり、雨の日には体を十分動かして遊べる場を用意したりする等して、体をしっかり動かして遊ぶ楽しさを感じることができるようにする。(好) (3)友達との関わりが広がっていく時期なので、教師も遊びに加わり、一人一人の遊びの取り組みを具体的に言葉で表したり、友達との話をつなぐことができるような声を掛けたりする。(発)【習一聞く】 (4)トラブルの際は、互いに嫌な気持ちが残らないように双方の気持ちを十分に汲み取り、まずは思いを受け止め、代弁したり仲介したりして楽しく遊べるような雰囲気づくりを心掛ける。(発)【習一話す】 (5)「貸して」「入れて」等、生活に必要な言葉があることを知らせ、使えたときには認めたり、一人では言えないときには教師と一緒に言ったりしながら、相手に思いが伝わる喜びを感じたりその場に合った言葉を使おうとしたりすることができるようにする。(発)【習一話す】 (6)一人一人の思いを十分受け止めて話を聞くようにし、安心して自己表出できるようにするとともに、自分の思いを表現する喜びを味わえるようにする。(発)【習一話す】 (7)生き物に関心をもって見たり触れて遊んだりできるように、よく見える場所に置いておき、教師も一緒に関わったり幼児の感じていることに共感したりする。(好)(発) (8)砂や粘土、水等に全身で触れる中で、教師も一緒に遊んだり遊びの楽しさに共感したりして、感触を楽しんだり、したい遊び方で関わったりできるようにする。(好)(発) (9)園内をみんなで探検する機会をつくったり、年中、年長児の遊びに参加したりするを通して、園内にいろいろな場所があることに気付くことができるようにする。(安) (10)幼児が興味をもちやすいような音楽を用意したり教師が楽しそうに大きな動きで踊ったりすることで、曲に合わせて表現をしたり体操をしたりすることに楽しんで取り組めるようにする。(発) (11)面や衣装等簡単につくって身に付けることができるような材料や用具を十分な数準備する。またイメージが膨らむように幼児の思いに共感する。(好) (12)水や砂、ドングリ等の自然物を使って遊んだり、おやつを食べたりするときに、自然に数や量に触れることができるような用具や遊びを用意したり、声を掛けたりする。(好) 			<ul style="list-style-type: none"> (1)手洗い、うがいや食事の仕方等の生活習慣については、個々に合わせて具体的に声を掛けたり、保護者と連携して一緒に進めたりすることで、自分でしようすることができるようにする。(基)【習一生活】 (2)固定遊具や運動遊び等で一人一人の取り組む様子に合わせて、頑張っている姿や前よりもできるようになったことを認めて、体を動かして遊ぶ楽しさを感じたりより意欲をもって取り組んだりできるようにする。(発) (3)鬼遊びや集団遊び等では、教師も一緒に参加し大きな動きで表現したり、追い掛けたりすることで、逃げる、追いつける等して思い切り走ることを楽しむことができるようにする。また、ルールについては必要なものから具体的に知らせたり必要に応じて幼児が分かりやすいルールを問い掛けながらつくったりすることで、それらのルールを守ってみんなで遊ぶ楽しさを感じることができるようにする。(発)【習一きまり】 (4)友達と関わることででき、共通のイメージがもちやすいような環境(基地、家、面等)を用意する。幼児が気軽にもち運んで遊びの場をつくり出しやすいような遊具や用具の選択や配置の仕方等を考慮する。また、友達とのつながりを感じて楽しめるような遊び(ペープサートを使った話、ごっこ遊び等)を工夫するとともに、教師も一緒に遊びながら会話をつなげたり、一人一人の思いを出しながら、周りの友達とイメージをつないで遊べるようにしたりする。(発) (5)遊びの仲間に入りたくてもなかなか入ることができない幼児には、様子を見ながら必要に応じて一緒に「入れて」と声を掛けたり、したい遊びに誘ったりすることで、徐々につながりをもって遊ぶことができるようにする。(発)【習一話す】 (6)自己主張によるぶつかり合いが多くなる時期なので、それぞれの言い分や気持ちをしっかりと聞くことで、自分の言葉で言えるようにするとともに、互いに納得できるような遊び方を教師が提案したり、一緒に考えたりする。(制)【習一聞く・話す】 (7)興味をもったり触れたりしやすい場に秋の自然物を置いたり、集めて遊ぶことができるような容器を用意したりすることで、触れて遊びながら親しみもてるようにする。また、園外保育で近くの山や公園、小・中学校等いろいろな場所に出掛ける機会をつくり、季節の移り変わりを感じることをできるようにする。(好) (8)氷や雪等の自然現象は機会を逃さず興味もてるように場や時間を確保し、教師も一緒に遊んだり、発見や喜びに共感したりすることで、自然に対する驚きや感動を素直に表現することができるようにする。(発) (9)教師も一緒に触れたり話をしたりして、もちつきや正月、節分等の生活の出来事に関心をもてるようにする。(好) (10)みんなで歌ったり楽器を鳴らしたり、お話の登場人物になったりして遊ぶ機会をつくり、友達と一緒に表現する楽しさを感じることができるようにする。(発) (11)いろいろな材料を用意しておき、自分なりの思いをもってつくる楽しさを感じることができるようにする。必要に応じて、製作材料の使い方や安全な用具の使い方について知らせる。(発) 					

教育課程（3年保育4歳児）

「学びに向かう力」の5つの視点の表記 好奇心：(好)・自発性：(発)・自制心：(制)・挑戦意欲：(挑)・協同性：(協) 基本的生活習慣：基 生活していくために必要な習慣：【習—生活・聞く・話す・きまり】

期 月	II-①					II-②					
その時期 の特徴	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
ねらい	○身の回りの様々な事象や現象に興味をもち、自分から繰り返し取り組んだり試したりする。 ○できるようになったことを喜んだり、満足感を感じたりし、自分からしようとする。 ○友達や先生に自分の思いを伝えながら、一緒に遊ぶ。					○自分なりのめあてをもって考えたり試したりしながら、繰り返し取り組む。 ○未経験のことや、やや抵抗のあることにも取り組もうとし、自分の頑張りに気付くとともに、満足感をもつ。 ○友達に自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりしながら、一緒に遊びや仕事に取り組む。					
内容	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことや片付け等を、自分でする。<u>基</u> おやつや牛乳・弁当のときの当番のやり方を知り、喜んでする。【習—生活】 いろいろな運動的な遊びに興味をもち、自分なりにやってみようとする。(発) 友達のしていることや言っていることに関心をもち、関わりを広げながら一緒に活動する。(発) 物事のよし悪しを知り、生活に必要な約束やきまりを守ろうとする。(制)【習—きまり】 自分の思いや考えを言葉で言ったり、先生や友達の言葉を聞こうとしたりする。(発)【習—聞く・話す】 身近な自然物（生き物、植物、砂、土、水等）に関心をもち、繰り返し見たり触ったり使ったり遊んだりする。(好) 園内外のいろいろな場所に行き、関心をもって関わる。(好) 身近な生活の中の出来事に気付いたり、関わったりする。(発) 自分なりに音楽やリズムに合わせて体を動かしたり、楽器を鳴らしたり、歌ったりする。(発) いろいろな素材、色、形等に関心をもち、それを使って自分なりにかいたりつくったりする。(発) 遊びや生活の中で人や身近な物の数や量に関心をもつ。(好) 					<ul style="list-style-type: none"> 健康、安全に生活する仕方が分かり、自分からしようとする。<u>基</u> 当番活動の必要性が分かり、自分からしようとする。【習—生活】 自分なりのめあてをもっていろいろな運動的な遊びに関わり、体を動かして遊ぶ。(挑) いろいろな友達と遊ぶ中で、友達のよさや頑張っていること等、様々な面に気付く。(協) たくさんの友達とルールのある遊びをしたり、遊びに必要なルールを考えたりする。(協) 物事のよし悪しに気付くとともに、遊びや生活に必要なきまりや約束を守ろうとする。(制)【習—きまり】 自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いや考えを聞いたりする。(協)【習—聞く・話す】 季節の移り変わりや自然の美しさ、不思議さ等に気づき、身近な自然物（砂、土、木の実等）を使ったり、冬の自然現象（霜、氷、雪等）に興味をもったりして関わったりして遊ぶ。(好) 園内外のいろいろな場所を使って遊ぶ。(発) 身近な生活の中の出来事に関心をもって関わる。(好) 絵本を読んだりお話を聞いたりして自分なりのイメージを広げ、音や動きや言葉で自分なりに表現する楽しさを味わう。(発) 材料や用具を考えながらいろいろな方法でかいたりつくったりして、それを使って遊ぶ。(発) 					
環境構成と教師の援助	<p>(1) 遊び慣れていて片付け方がよく分かっているものについては、できるだけ幼児に任せ、自分たちで最後まで片付けることで自信がもてるようにする。新たに環境として用意したものについては、片付けるものや片付け方を知らせ、教師と一緒に最後まで片付けることができるようにしていく。<u>基</u></p> <p>(2) 幼児のやってみたい気持ちをもとに、自分たちで牛乳を運んだり食べる前のあいさつをしたりする活動を取り入れる中で、自分たちでできた喜びを十分認め、満足感を味わうことができるようにする。【習—生活】</p> <p>(3) 教師も進んで遊びに参加し、集団遊び等を通して、友達と一緒に遊んだり思い切り体を動かしたりできるようにする。(発)</p> <p>(4) 教師も一緒に遊びに参加しながら、それぞれの幼児の遊んでいる様子や考えたり工夫したりしている姿を周りの幼児に知らせ、自分もしてみようという気持ちをもち、同じ場で遊んでいる幼児が互いに関わり合いながら遊ぶことができるようにする。(発)</p> <p>(5) 園内での約束を守ろうとしない幼児が見られたときには、教師と一緒に活動しながら場面を捉えて声を掛けたり、危険な遊具の使い方を知らせたりして幼児同士で注意できるようにし、集団で生活するための約束を思い出したり意識したりできるようにする。(制)【習—きまり】</p> <p>(6) 遊びや遊びの進め方等で、友達のしていることや言っていることに気付いたり自分の気持ちを言葉で伝えたりできるように教師が仲立ちとなるようにする。(発)【習—聞く・話す】</p> <p>(7) 身近な動植物に興味をもつことができるように、幼児が気付いたことや不思議に思ったこと等に一緒に驚いたり共感したりする。(好)</p> <p>(8) 川や池をつくる、泥団子をつくる等、それぞれの幼児が自分なりに遊んでいる姿を認めたり周りの幼児に知らせたりして、満足感を感じながら繰り返し取り組むことができるようにするとともに、友達の様子に気付き一緒につくってみようという気持ちをもつことができるようにする。(発)</p> <p>(9) 園外に出掛けたり園内のいろいろな場所で遊んだりする中で、幼児の発見や驚きを受け止めたり教師も一緒に伸び伸びと活動したりして、開放感と楽しさを感じられるようにする。(発)</p> <p>(10) こどもの日や七夕等、季節の行事に関心をもたせ、幼児が主体的に活動に参加できるようにする。身近なニュースを話題にすることで、いろいろな出来事に興味をもち、自分なりに感じたり考えたりする機会になるようにする。(好)</p> <p>(11) 幼児がよく知っている曲や身近な題材を扱ったり曲に合わせて体を動かしたり歌ったりすることで教師や友達と一緒に踊ったり歌ったりする楽しさが味わえるようにする。(発)</p> <p>(12) いろいろな素材を使った遊びに興味をもつ頃には、幼児の遊びの様子を見て、扱いやすい大きさの空き箱や容器、紙、新聞紙等を随時出せるようにしておく。(発)</p> <p>(13) 泥団子がいくつできたか、玉入れでどちらのカゴに多く玉が入っているか等、楽しく遊ぶ中で自然に数や量を意識することで、興味や関心をもつことができるようにする。(好)</p>					<p>(1) 風邪の予防のためにうがいや手洗いが必要であることを具体的に知らせたり、忘れずに毎日自分から取り組んでいる姿を認めたりすることで、自分から進んでしようすることができるようにする。<u>基</u></p> <p>(2) 当番が自分たちで仕事を進めようと頑張っている姿を認め、自分がしていることが学級みんなの役に立っているということが感じられるようにしていく。【習—生活】</p> <p>(3) 当番の仕事を自分から進んでできたことを認めることで、満足感をもつことができるようにするとともに、当番活動により意欲をもつことができるようにする。【習—生活】</p> <p>(4) 縄跳びやフープ、長縄跳びや一輪車等に関わっている姿を捉え認めることで、自分でめあてをもつことができるようにする。また、繰り返し取り組んでいる姿、前より少しでもできるようになったこと等を認めることで、幼児が自信をもち、より意欲をもって取り組むことができるようにする。(挑)</p> <p>(5) 遊びや生活の中で、繰り返し取り組む姿や頑張っている姿、友達を心配する姿等、友達のいろいろな面に気付かせることで、友達のよさやつながりを感じられるようにする。(協)</p> <p>(6) ルールを守らないことでトラブルが生じた場合は、参加している幼児とルールを確認したり遊びがより楽しくなるようにルールを考えたりしながら、ルールを守って遊ぶことの大切さに気付くことができるようにする。(制)</p> <p>(7) どうすれば安全に過ごすことができるか、どうすれば周りの友達が気持ちよく過ごすことができるか等、気付いたり思い出したりする機会をもつことで、友達と生活するために必要なきまりや約束を自分から守ろうとすることができるようにする。(制)【習—きまり】</p> <p>(8) 一人一人の幼児が自分の思いを伝えることができているか、また友達の思いを聞くことができているか等を把握し、個に応じた援助していくことで、友達と思いを伝え合いながら遊びを進めていくことができるようにする。(協)【習—聞く・話す】</p> <p>(9) 自分の考えたことを友達に伝えたり友達の考えを聞いたりしながら遊びを進めていくことができるように、一人一人の考えを受け止め、自分の考えていることを言いやすい雰囲気をつくったり、必要に応じて仲介したりする。(協)【習—聞く】</p> <p>(10) 落ち葉や木の実を使って遊ぶことができるような環境を用意したり、木の実等を使ってどんなことができるか投げ掛けたりして、したい遊びのイメージが広がるようにする。(好) (発)</p> <p>(11) 霜や氷、雪等の自然現象に触れる中で、気付いたこと、発見したことを伝えたり繰り返し関わったりして、その不思議さや面白さ等を感じ取ることができるようにする。(好)</p> <p>(12) 木々の紅葉した様子や木の葉が落ちていく様子等については、園内外の様子にも目を向けさせ、関心をもつことができるようにする。(好)</p> <p>(13) 春が来ていることを知らせるニュースや周りの自然の様子を知らせることで、自分から春の訪れを探したり喜びを感じたりするようにする。(好)</p> <p>(14) 劇遊びやオペレッタ等をする中で、友達と一緒に動きや必要な台詞を考えることで、共通のイメージで遊びを進める楽しさが感じられるようにする。また、友達の表現している様子に気付かせることで、友達の頑張りを認めたり自分もいろいろな表現を試したりしようとする気持ちをもつことができるようにする。(協)</p> <p>(15) 繰り返し試したり自分なりに考えたり工夫したりできるように、広い場や新たな発想を刺激するような材料、用具を準備する。(発) (挑)</p> <p>(16) かるたやトランプ、絵合わせ等の遊びをする中で、数や文字に対するそれぞれの幼児の興味や関心に応じた援助をすることで楽しく遊べるようにする。(好)</p>					

教育課程（3年保育5歳児）

「学びに向かう力」の5つの視点の表記 好奇心：(好)・自発性：(発)・自制心：(制)・挑戦意欲：(挑)・協同性：(協) 基本的生活習慣：(基) 生活していくために必要な習慣：【習—生活・聞く・話す・きまり】

期	Ⅱ-③			Ⅲ-①			Ⅲ-②				
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
その時期の特徴	自分なりにイメージやめあてを実現しながら、友達と遊びや仕事を進めていく時期			友達と試行錯誤しながらめあてを達成していく時期			自分の力を発揮しながら、友達と共通の目的に向けて、力を合わせて活動を深めていく時期				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな活動に自分から取り組み、試したり工夫したりする。 ○自分なりにめあてをもち、挑戦していく楽しさや満足感を味わう。 ○友達と自分の思いや考えを出し合いながら活動を進める。 			<ul style="list-style-type: none"> ○めあてやイメージしたことに向けて、試したり工夫したりしてやり遂げようとする。 ○自分なりの課題に向けて取り組み、達成感を味わう。 ○友達と思いや考えを伝え合ったり、励まし合ったりしながら活動を進める。 			<ul style="list-style-type: none"> ○活動に見通しをもち、いろいろなやり方を試しながら、最後までやり遂げようとする。 ○いろいろな活動を通して、自分の力が生かされたり認められたりすることを喜び、自信をもつ。 ○友達と共通の目的に向けて、互いの思いや考えを認め合いながら、協力して活動を進める。 				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全に必要なことの意味を理解して取り組もうとする。(基) ・自分たちの生活に必要な当番や係の活動等に取り組もうとする。【習—生活】 ・戸外で友達と一緒に全身を使ったいろいろな遊びをする。(発) ・同じグループや同じ場で活動している友達と、考えを出し合ったり試したりしながら遊びや生活を進める。(協)【習—聞く・話す】 ・年少、年中児に幼稚園での生活の仕方を教えたり、一緒に遊んだりする中で、優しく接しようとする気持ちをもつ。(制) ・園外保育や行事を通して地域の人に親しみをもって接する。 ・遊びや生活に必要なきまりや約束を自分たちで考え、守る。(制)【習—きまり】 ・言っていること、悪いことがあることに自分で気付く。(制) ・飼育物や栽培物の世話を通して、大切にしようとする気持ちをもつ。 ・考えたことや感じたことを相手に分かるように伝えたり、先生や友達の言うことを最後まで聞いたりする。(協)【習—聞く・話す】 ・遊びや生活の中で、文字に興味や関心をもつ。(好) ・自然に親しみ、身近な生き物や植物等の生長や形、美しさ、特徴に気付く。(好) ・遊びや生活に応じていろいろな場を選んで使う。(発) ・身近な生活の中でいろいろな出来事を知り、関心をもって関わる。(発) ・感じたこと、考えたこと等を音や動き等で表現したり、遊びに必要なものをつくったりする。(発) ・遊びや生活の中で、数を数えたり量の違いに気付いたりする。(発) ・自分のめあてをもって繰り返しやってみようとする。(挑) 			<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全な生活に必要なことに、自分から取り組む。(基) ・当番や係の活動等に主体的に取り組む。【習—生活】 ・力いっぱい体を動かす遊びに取り組み、自分なりのめあてをもち、友達と競い合って遊ぶ。(発) ・友達と遊びや仕事に取り組む中で、友達の頑張っている姿を認めたり励ましたりする。(協) ・年少、年中児と一緒に遊ぶ中で、思いやりの気持ちをもつ。(発) ・自分たちできまりを考えて、遊びや生活を進める。(協)【習—きまり】 ・言っていること、悪いことを自分で判断し、考えて話す。(制) ・飼育栽培している動植物それぞれに適した関わり方を知り、世話をする。(発) ・一つの話題についてみんなで話し合う中で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを言ったりする。(協)【習—聞く・話す】 ・遊びや生活の中で文字を見たり使ったりしようとする。(好) ・季節の移り変わりの美しさや不思議さに関心をもって、身近な自然物(砂、土、木の実等)を取り入れて遊ぶ。(発) ・遊びや生活に応じていろいろな場を生かして使う。(発) ・友達と一緒に、感じたこと、考えたこと等を、音や動きで表現する。(発) ・遊びに必要な物を材料や用具を選んでつくり、使って遊ぶ。(発) ・遊びや生活の中で必要に応じて数を数えたり量や大きさを比べたりする。(発) ・初めてのことや少し難しいことにも繰り返し挑戦する。(挑) ・友達同士で励まし合ったり、刺激を受けたりしながら頑張ろうとする。(挑) 			<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活に見通しをもち、友達と力を合わせて遊びや仕事を進める。(協)【習—生活】 ・友達とルールや遊び方を考えながら、体を動かして遊ぶ。(協) ・友達と共通の目的に向かって取り組む中で、認め合ったり励まし合ったりする。(協) ・年中児に係の仕事内容を伝えたり、一緒に遊んだりする。(協)(制) ・自分たちできまりをつくったりつくり替えたりしながら、生活を進める。(協)【習—きまり】 ・相手の気持ちに気付く。(協) ・自分なりの課題に挑戦し、多少の困難があっても、最後までやり遂げようとする。(挑) ・考えたことやイメージを友達に分かるように伝えたり、友達の考えを聞いて取り入れたりする。(協)【習—聞く・話す】 ・文字で伝える楽しさを知り、遊びや生活の中で使う。(発) ・自然現象(霜、氷、雪等)に関心をもち、その不思議さに気付いたり、関わって遊んだりする。(発) ・一年生と一緒に遊んだり小学校のことを教えてもらったりして、小学校に関心をもつ。(好) ・友達と一緒に考えたり工夫したりしながら、いろいろな表現をする。(発) 				
環境構成と教師の援助	<ol style="list-style-type: none"> (1)生活習慣を見直したり、発育測定や検診を通して自分の体に関心をもたせたりすることで、健康・安全な生活に必要なことを感じ取り、自分から取り組もうとすることができるようにする。(基) (2)前年度の年長児から引き継いだ係の仕事内容や方法を取り入れながら、自分たちでやり方を考えて取り組めるよう考えを出し合う姿を認めたり、幼児と一緒に考えたりする。【習—生活】 (3)戸外で友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを感じることができるように、ルールのある大勢で遊ぶ遊びの場を用意し、教師も一緒に遊びに参加し、遊びの楽しさを伝えたり遊び方を知らせたりしていく。(発) (4)友達と遊びや生活を進めていく楽しさを感じることができるよう、友達と考えを言い合ったり、相手の考えを受け入れたりして遊ぼうとする姿を見守り、必要に応じて仲介したり助言したりする。(協)(制) (5)新入園児の世話の仕方については、自分が入園したときにしてもらったことを思い出しながら、どのようにすればよいか考えられるようにする。また、幼児なりの世話の仕方や、年少児に対する思いやりの気持ちを認めていく。(発) (6)一緒に遊んでいる友達の言動やイメージに目が向くような働き掛けをし、友達と刺激を受け合い、遊びに取り入れていくことができるようにする。(協) (7)友達と遊びや仕事を進める中で、自分の思ったことを相手に伝えたり、友達の言っていることを聞いたりすることができるように、友達に分かる言い方を知らせたり言葉を補ったりして仲介する。(協)【習—聞く・話す】 (8)動植物に興味を示して見たり触ったりすることができるように、教師も興味をもって見たり共感したりして、関心を高めるような助言をする。また、興味をもったことを調べられるように、図鑑や絵本を用意しておく。生き物の飼育や死を通して、生き物を大切に扱う気持ちをもてるようにする。(好) (9)日本古来の行事に関心をもたせたり、テレビや新聞等から、世の中の出来事に関心をもったり自分の生活に取り入れられることができるようにする。(好) (10)木片や紙、空き箱等の製作材料を十分に用意し、構成を考えたり工夫したりしながら、自分なりのイメージを形にすることができるようにする。(発) (11)遊びや生活の中で、欠席者調べをしたり当番が牛乳やおやつを配ったりする等、数を数える機会をもつことで数に関心をもてるようにする。(発) (12)めあてを実感することができるよう、幼児の思いを言葉にして表したり思いを共有したりする。(発)(挑) (13)製作材料や様々な素材を用意することで、自分なりのイメージやめあてをもって遊ぶことができるようにする。(発) 			<ol style="list-style-type: none"> (1)手洗い、うがいを自分からしている様子を認めたり、必要性を学級全体に話したりして、丁寧に取り組むことができるようにする。(基) (2)同じ係や当番の友達と一緒に、話し合ったり手伝い合ったり分担したりしながら仕事を進めている姿を認め、協力して仕事を進めてよかつたという気持ちをもてるようにする。【習—生活】 (3)自分の思いを通そうとして、一方的に自分の意見を主張しようとする場面も見られるので、教師が仲介しながら相手の言うことにも耳を傾けることや意見の述べ方等について、その都度助言し、少しでも互いの立場を考えた発言ができるようにする。(制)【習—聞く・話す】 (4)ドッジボール、縄跳び、まりつき等に教師も積極的に参加し、大勢の友達と体を動かして遊ぶ楽しさが味わえるようにする。(発) (5)友達と同じめあてをもって活動する楽しさや満足感を十分味わえるように、教師も仲間の一員として参加し、幼児の考えを引き出すきっかけを与えたり、互いの考えを仲介したりして幼児と相談しながら遊びを展開していく。また、年少、年中児を客として誘う等することが予想されるため、年少、年中児が分かるように伝えたり遊び方を考えたりする等、必要に応じて援助していく。(協)(制)(挑) (6)自分たちで遊びを進めようとする意欲が強くなっていくので、自分の考えを言ったり友達の意見を聞いたりして、より遊びが発展したり豊かになったりするよう遊びの進め方やルール等を幼児と一緒に考えていく。(協)(制)【習—聞く・話す】 (7)遊びを進めていく中で、文字や数字を使って表そうとしているときには、必要に応じて知らせ、使って遊べるようにする。(発) (8)木の実や木の葉の形や色、大きさ等の違いに関するいろいろな発見や気づきを大切にするとともに、自然物を使って遊ぶことができるように、材料や場を用意する。(発) (9)園外保育で出掛けした施設等に興味をもって関わっている様子を認めたり、使って遊んだり自分たちで遊びに取り入れられたりできるように場や材料を準備する。(発) (10)友達と同じめあてをもって遊ぶ中で幼児がしようとしていることが実現できるように、適した材料を選んで使えるように様々な材料を用意する。(協) (11)ドッジボールでチームに分かれたり、木の実等の量を競ったりする中で、数や量に関心をもつことができるようにする。(発) 			<ol style="list-style-type: none"> (1)3年間で経験した遊びをみんなでしたり、思い出を話し合ったりしながら最後の園生活を安定した気持ちで過ごせるようにする。(協) (2)ルールのある遊びに関心が高まっていくので、みんなが楽しく遊ぶためには、今までのルールをどのように変えていったらよいか話し合う中で、ルールの大切さや、互いの意見や立場を尊重することの大切さを知らせるようにする。(協)【習—きまり・聞く・話す】 (3)共通の目的に向かって友達と考えを出し合ったり相手の気持ちを考えたりしながら、遊びを進めている姿を認め、友達と一緒に頑張ることの喜びを味わったり、さらに自分たちで考えたり工夫したりしようという気持ちをもてるようにする。(協) (4)係の仕事については、年中児に引き継ぐために年中児と一緒に仕事をする時間や場をもち、年中児にも分かる言葉や話し方を考えることで、どうすれば年中児に分かりやすく伝えられるかに気付くことができるようにする。(制) (5)係の仕事については、冬になり環境の様子が変化するため、幼児と一緒に仕事内容を確認し、今の生活に必要な仕事を考えていく。 (6)少し難しいことでもしようとしている姿を認めたり励ましたりして、やってみようという意欲を支えていく。(挑) (7)幼児同士で考えたことやイメージを伝え合ったり、友達の考えを受け入れたりしている姿を認め、友達と考えを受け入れ合いながら遊びを進める楽しさを味わえるようにする。(協)(制)【習—聞く・話す】 (8)家庭で経験したかるた、トランプ、すごろく等で遊べるように用意し、友達と一緒に遊びながら、文字や数字への関心を高めるようにする。(好) (9)氷、雪等の自然現象については、教師も一緒に感動したり関わって遊んだりし、自然の不思議さが感じられるようにする。(発) (10)一年生の学習の様子や小学校の施設を見せてもらったり一緒に遊んだりして楽しい経験をすることで、小学生になることへの期待や憧れの気持ちをもてるようにする。(好) (11)友達と気持ちを合わせて、劇をしたり合奏をしたりしているところを認め、大勢の友達とそろって動く大切さに気付かせ、友達と一緒に表現する楽しさを味わうことができるようにする。(協) (12)かるたや縄跳び等、競ったりめあてをもって遊んだりする中で、数を数えたり比べたりする面白さを感じられるようにする。(発) 				

安心感：(安) 「学びに向かう力」の5つの視点の表記 好奇心：(好)・自発性：(発)・自制心：(制)・挑戦意欲：(挑)・協同性：(協) 基本的生活習慣：(基) 生活していくために必要な習慣：【習—生活・聞く・話す・きまり】

校種・期	幼稚園・Ⅲ－A－①（10月～12月）	幼稚園・Ⅲ－A－②（1月～3月）	小学校・Ⅲ－B－①（4月～7月）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてやイメージしたことに向けて、試したり工夫したりしてやり遂げようとする。 ○自分なりの課題に向けて取り組み、達成感を味わう。 ○友達と思いや考えを伝え合ったり、励まし合ったりしながら活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動に見通しをもち、いろいろな方法を試しながら、最後までやり遂げようとする。 ○いろいろな活動を通して、自分の力が生かされたり認められたりすることを喜び、自信をもつ。 ○友達と共通のめあてに向かって、互いの思いや考えを認め合いながら、協力して活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な活動の中で、驚いたことや興味をもったこと、感じたことを話したり、体験したりしながら、小学校生活や生活の流れを知る。 ○小学校生活で自分のしたことを話したりかいたりして、楽しかったことを見直したり、生活の見通しをもったりする。 ○小学校生活や生活の流れで気付いたことを話し、新しい友達と一緒に楽しく活動する。
対象をとらえることばの学び	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を探したり集めたりする中で、色や形の違いや面白さに気付き、遊びに取り入れようとする。(好) ・遊びに必要なものを考え、試したり工夫したり、それに適した材料を選んでつくったりする。(発) ・数を数えたり、量を比べたりすることに関心をもつ。(好) ・連続した話に興味をもち、場面を想像したり、続きを期待したりしながら聞く。(発) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象に関心をもち、その不思議さに気付いたり関わって遊んだりする。(好) ・共通のめあてやイメージを実現するために、試したり比べたりしながら、よりよい方法を考えて、やってみる。(発) (挑) (協) ・数を数えたり量を比べたりすることの面白さを感じる。(好) ・言葉や文字を使って遊ぶことの面白さを感じる。(好) ・一年生と一緒に遊んだり小学校のことを教えてもらったりして、小学校生活に関心をもつ。(好) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活事象に興味・関心をもち、生活事象の特徴や生活事象同士の違いに気付いたり、生活や活動に生かしたりする。(好) ・小学校の施設や生活に興味・関心をもち、自分なりに気付いて使ってみたり、やってみたりする。(好) (発) ・形や色、数字や文字、音や図形等に興味・関心をもって関わり、それらの特徴やそれらを使った活動の楽しさに感覚的に気付き、自分なりに考えたり使ったりすることを楽しむ。(好) (発)
自己を見つめることばの学び	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことや少し難しいことにも繰り返し挑戦する。(発) (挑) ・友達同士で励まし合ったり、刺激を受け合ったりしながら頑張ろうとする。(挑) ・状況に応じてやりたいことや物事のよし悪しを判断し考えて行動したりする。(発) (制) ・遊びに必要なルールを理解し、守って遊ぶ。(制) (協) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてに向けて挑戦し、最後までやり遂げようとする。(制) (挑) ・自分のめあてを達成した喜びやうまくいかない悔しさを感じ、次のめあてに向かって取り組む。(挑) ・考えたことやしたことを認められることで、自分のよさを感じる。(発) ・心も体も大きくなったことに気付き、自分の成長を喜ぶ。(発) ・ルールや遊び方を考え、守って遊ぶ。(制) (協) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたことや感じたことを話したり、絵や言葉でかいたりして見直し満足する。(発) ・自分のしたことやできたこと、次にしたいことを明確にして活動する。(挑) ・自分のしたことを振り返る中で、自分のしたことや考えのよさに気付く。(発) ・小学生になった喜びと自信から、意欲的に小学校生活に取り組み、できる喜びを感じたり、先生から認められて次への意欲をもったりする。(発)
他者とつながることばの学び	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象について気付いたことや考えたことを友達と伝え合う。(協) ・大勢の友達と遊ぶ中で、遊び方やルール等について互いの考えやイメージを伝え合いながら遊ぶ。(協) ・友達とめあてを共有し、競い合ったり一緒に遊びを進めたりして物事をやり遂げようとする。(協) ・友達の頑張っている姿に気付き、認めたり励ましたりしながら遊ぶ。(協) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びの進め方について考えたり試したり比べたりしながら遊びを進めようとする。(発) (制) (協) ・自分の力を発揮しながら、友達の考えを認めたり受け入れたりして大勢の友達と力を合わせてつくり上げていく。(発) (制) (協) ・共通のめあてやイメージを実現するために、友達と考えを伝え合い、より面白くするための考えを深めていく。(制) (協) ・友達のよさに気付き、互いに認め合いながら一緒に活動する楽しさを味わう。(協) 	<p>初めての環境や新しい学級集団の中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が気付いたことや考えたことを、先生や友達に言葉で伝えようとする。(協) ・先生や友達のしていることや話を見聞きたり、質問したりする。(制) (協) ・友達と話したり考えたりして、考えを出し合う。(制) (協) ・友達と分担したり力を合わせたりする。(制) (協) ・友達のしていることや考えのよさに気付く。(協)
幼小接続期に生活していくために必要な習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・次に何をするのか見通しをもって行動し、自分から進んで行く。【習—生活】 ・先生や友達の話に興味をもち、最後まで聞こうとする。【習—聞く】 ・困ったことや分からないことは、先生や友達に尋ねる。【習—話す】 ・集団生活のきまりの必要性を感じ、考えて行動する。【習—きまり】 		<ul style="list-style-type: none"> ・時計を見たり、次の授業までにすることを把握したりして、準備をしたり行動したりする。【習—生活】 ・先生の話をも自分のこととして聞き、考えたり行動したりする。【習—聞く】 ・(小学校という新しい環境でも) 困ったことや分からないことは、先生や友達に尋ねる。【習—話す】 ・小学校生活のきまりや約束を知り、守ろうとする。【習—きまり】
環境構成及び教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な素材や自然物を使って遊ぶことができるような材料や場を用意することで、形や色、大きさ等の違いについて幼児がいろいろな発見や気付きを試したり工夫したりできるようにする。(好) ○教師も仲間の一員として参加し、幼児の考えを引き出すきっかけを与えたり、互いの考えを仲介したりすることで、友達と同じめあてをもって活動する楽しさを味わうことができるようにする。(挑) (協) ○様々な材料を用意しておくことで、友達と同じめあてをもって遊ぶ中で、しようとしていることが実現できるようにする。(好) (挑) ○遊びがより発展するように、教師も一緒に考えていくことで、遊びの進め方やルール等について、自分の考えを言ったり友達の意見を聞いたりすることができるようにする。(制) ○少し難しいことでもしようとしている姿を認めたり励ましたりすることで、やってみようという意欲を支えていくことができるようにする。(挑) ○ドッジボールでチームに分かれたり、木の実の数や量を競ったりする中で、数や量に関心をもつことができるようにする。(好) 	<ul style="list-style-type: none"> ○共通のめあてに向かって友達と考えを出し合ったり相手の気持ちを考えたりしている姿を認め、友達と一緒に頑張ることの喜びを味わったり、さらに自分で考えたり工夫したりしようという気持ちを持ったりできるようにする。(発) (挑) (協) ○共通のめあてに向かって遊んだ場面について具体的に振り返って話をする時間をもつことで、同じイメージを持ったり次への意欲につながりすることができるようにする。(挑) ○幼児同士で考えたことを伝えたり、考えを受け入れたりしている姿を認め、考えを受け入れ合いながら遊びを進める楽しさを味わえるようにする。(協) ○最後までやり遂げようとするができるように、友達と一緒に繰り返し取り組む姿や励まし合っている姿を認め、次への意欲を高める。(挑) ○一年生の学習の様子や施設を見たり、一緒に遊んだりして楽しい経験をすることで、小学生になることへの期待やあこがれの気持ちをもてるようにする。(好) ○一日の流れを知らせたり、自分で考えられるように見守ったりすることで、自分で生活の流れに見通しをもち、生活を進めていくことができるようにする。(発) (制) 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが興味・関心をもっていることを話したり活動に取り入れられたりすることで、小学校生活や施設に興味・関心をもって安心して関わることができるようにする。教師も子どもの気付きや興味をもっていることに驚いたり楽しんだりして一緒に活動することで、教師にも親しみをもち、より意欲的に活動することができるようにする。(安) (好) ○子どものできた喜びや大きくなった自信に共感したり認めたりすることで、意欲的に小学校生活に取り組むことができるようにする。(発) (挑) ○具体物を吟味したり、視覚教材を提示したりすることで、自分の考えをもったり、したことの意味を理解したりして、学習のめあてをもつことができるようにする。(発) (挑) ○十分に活動できる環境を用意したり、周りの友達の様子に気付けるような投げ掛けや提示の方法を工夫したりすることで、友達のしていることや考えに気付き、真似たり取り入れられたりすることができるようにする。(協) ○教師や友達の話の聞いたり自分の思いを伝えたりする場面での話し合いの形態を変えたり、小集団で行ったりして工夫することで、教師や友達の話の最後まで聞くことができるようにする。(制) (協) ○分かりやすい言葉での確認や揭示、実際に体験できる場を用意することで、小学校生活のきまりや約束を自分から守ろうとすることができるようにする。(制) (協)

学校等の概要

1 学校名、校長名

オカヤマダイガクキョウイクガク ブ フ ソクヨウ チ エン
 岡山大学 教育学部附属幼稚園

園長 タカハシ トシユキ
 高橋 敏之

2 所在地、電話番号、FAX番号

岡山県岡山市中区東山2丁目9番20号

TEL 086-272-0260 FAX 086-273-9229

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

(幼稚園の場合)

年少(3歳児)		年中(4歳児)		年長(5歳児)		計	
幼児数	学級数	幼児数	学級数	幼児数	学級数	幼児数	学級数
48	2	48	2	47	2	143	6

4 教職員数

園長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			6		1			5
ALT	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計						
		1		15						